

足のむくみと

静脈瘤

夕方になると足がむくむ。そういえば静脈瘤がある。これは心臓に戻って来るはずの血液が足に停滞したままになっっているために起こるものです。足の静脈には弁と呼ばれるものがあり心臓に向かって流れていった血液が足の方へ逆流しないようにコントロールしています。もしこの弁がなかったとしたらすべての静脈血は重力により足に溜まってしまいます。

足には皮膚の直ぐ下にある表在静脈と筋肉に包まれて深いところを流れている深部静脈があり両者は穿通枝という静脈によりつながっています。この穿通枝にもやはり弁があり血液は表在静脈→深部静脈の一方通行になるように制御されています。しかし弁が壊れると深部静脈の血液が表在静脈に逆流するため表在静脈はミミズの様に太くなり、静脈瘤が形成されます。このような状態では静脈の血液が長時間足に停滞したままとなるため静脈圧が上昇し液体成分が浸み出して皮下に貯留します。これが「むくみ」です。

すると皮膚に潰瘍を形成しますが皮膚潰瘍は極めて治りにくく、こうなる前に治療することが必要です。静脈瘤の治療は手術のみと考えて良いでしょう。静脈を除去するストリッピングが基本ですが、最近ではレーザーを用いて血管を閉塞させることによりストリッピングと同様の効果が得られる治療も行われています。ただしレーザー治療は今のところ保険適応ではなく自費診療ですのでご注意ください。

ではどんな状態になったら手術を考えた方が良いでしょうか。一般には静脈瘤やむくみの程度などにより決定します。しかし痛みなどの炎症所見が認められた場合は、早めに手術を考えるべきです。症状が軽度で、静脈瘤があっても少しだるい程度であれば弾性ストッキングの着用で対応できることがほとんどです。弾性ストッキングは強い力で下肢を圧迫するもので、足が軽くなってむくみが改善し、だるさがとれてきます。ただし静脈瘤が治ってしまうものではなく一時的に症状を軽くしたり、悪化しにくくする程度の効果しかありません。また静脈瘤がなくても長時間立ち仕事をする方は足がむくみやすくだるさに悩まされることもあります。こんな時も弾性ストッキングを試してみると良いでしょう。結構効果があります。



循環器内科・心臓血管外科
田村クリニック
南大沢メディカルプラザ

つかもと さえき
塚本 三重生

医学博士
日本外科学会専門医・指導医
日本胸外科学会指導医
日本心臓血管外科学会専門医